

# 観自在

弘長寺寺報  
第二十九号  
平成二十六年  
八月(年  
二回発行)

## 永代供養塔建立

弘長寺住職 森田裕光

時代のニーズに逆らえずに、当山も六〇七年まえから永代供養塔建立を計画せざるを得ませんでした。

(残念ながら家が絶えてしまう、どうしても後世にお墓の面倒を見てもらえない等の様々な理由で)永代供養のお世話になりたいのですが、「永代供養していただける施設が弘長寺さんにはおありでしょうか」お檀家様からの切実な問いかけがきっかけでした。

確かに無縁塔は建てました。そして当初はそれさえあれば足りるような気がしておりましたが、あくまでも有縁であり無縁ではないので、無縁塔では先祖代々に申し訳なく納得できないとの思いを伺い必要性に迫られました。

昨年亡くなった寺族と相談して、場所を第三墓地奥・山側の阿弥陀堂に隣接する四区画に建立しようと計画、その区画の一面を既に契約済み(墓石未建立)であった方に説明お願いをして、快く承諾・場所を移動していただくことができましたので本年着工となりました。

既に三軒の方が申し込みをされています。かなり大きな供養塔で、先祖代々の遺骨を一つにまとめたいただいた骨箱を中にある棚に入れることが可能となっています。

その棚には、三十三年間安置し三十三年を了えた時点で、中心にある地下総納骨器に合葬供養させていただきます。

供養は盆・正月・春秋両彼岸に毎年法要を執り行うことで永久に供養させていただきます。

永代供養の詳細をご希望の方はお寺まで。



完成目前です 両サイドに両山紋 正面上に寺紋が入ります

仏様は観音様です 台風が心配なので坐像にいたしました

## 地球を護ろう！

弘長寺護持会  
会長 武田民三

護持会の皆さまには、いよいよご健勝の御ことと拝察いたします。

『異常気象』といわれる今年の梅雨も、今までに起こったこともない風水害に、全国各地が見舞われました。

私たちのいる「地球」は、全体が大病に冒されていると説く気象学者は多くなっています。



このような地球にいる私たち仏教徒をはじめとする「信仰者」は、今なにをなすべきか考えるときだと思えます。それは、短期的な明日とか、五年後とか、十年先という間

題でなくて、子供や孫、次世代のことを考えて、どのような行動をすべきかということ

国連の「気候変動に関する報告書」では、地球の平均気温が、産業革命時点より『2度C』上昇すると、そこから後戻りできない急激な、しかも大規模な気候変動が起こるだろうと報告しています。

ようするに、今後世界中の国が温室効果ガスの排出を劇的に削減しないかぎり、地球と人類の未来は非常に暗いものだという事です。

その報告書では、「地球温暖化の最大の原因は人間の活動による」ことが再確認されているのです。

エネルギー部門の対策として、省エネ・再生可能エネルギー・原子力・CO2の地下貯留ができる新型の火力発電などすべてを動員して低炭素電源の比率を引き上げることが必須の要諦であるといつて

います。



しかし、経済界では「温暖化対策をすると経済が停滞し

営業がなりたたなくなる」と反対していますが、報告書では経済へのマイナス効果は「〇、〇六ポイント」に過ぎないと発表されていて経済へのダメージはほとんどないと考えられているのですが。

ところで、出雲大社教の「神葬祭」での葉に、『あなたは、この世に何処からきましたか。あなたは、この世を出れば何処にゆきますか』と書かれています。

「物事には、始めがあれば、必ず終わりがあります。本が

あれば必ず末があります。大地より生ずる草木は、必ず大地に帰ります。霜雪は必ずふたたび水に帰ります。鮭は生まれた川に帰ります。」との言葉が示されており、出雲大社の神葬祭は「古事記」・「日本書紀」に表された日本古来のこの「いのり」によって伝え継がれ言い継がれた「ミタママツリ」と示されています。

「自己の本質を知る」ことが大切なことは佛教でも、同じでありまして、道元禅師は『正法眼蔵』の中に、「佛法を習うというは自己を習うなり、自己を習うというは自己を忘るるなり、自己を忘るるというは萬法に証せらるるなり、萬法に証せらるるというは、自己の身心及び他己の身心を脱落せしむるなり」と示されています。

自己を習う…すなわち自己とは如何なるものであるかを、知ることが佛法であると教示して居られます。



私たちは、「心」とは如何なるものか、魂は肉体の死後存続するのか神や佛は在るのか無いか等々と「見えざる世界」のことを考えずには居れないのは、私たちの存在が、一面は「見える物質宇宙」に関係しながら、その反面では、「見えない世界」に関係をもつ存在であるからである。

(「生活の智慧365章」日本教文社刊)と教えられています。

このように考えてくると「科学だけでは問題は解決しない」と思いませんか。

ノーベル賞物理学者のチャールズ・タウンズ博士は『科学は宇宙の仕組みについて知りたいと思ひ、宗教はその意味を知りたいと思ふ』

この二つは分離することはできない。

幼い頃からの夏の想い出は  
いっぱいありますが、一生忘  
れない夏が巡って来ました。

護持会副会長  
坂本研次

### 夏が来ました

私たちが子孫に菩提寺を残すことのように素敵な地球環境を子や孫、次世代にプレゼントすることにしませんか。

ありがとうございます。

合掌

つまり科学は「どのようにして」という問題を探求するが、「なぜ」という質問に答えるものではないということだ。

人間の生にとって、この双方はいつの時代になっても必要だろう。』と述べています。

「どのようにして」を探求する科学、「なぜ」を問う宗教」ということだと。

昭和の六十三年間、農村恐慌に早魃、豪雨に豪雪の自然災害、そして戦争、敗戦という厳しい現実を直面し、ひたすらに仏祖のご加護を信じて、お互いに扶けあい励まし合いつつ困難を乗り越えた体験の記録集です。

これらに足りないのは昭和二十年八月十五日、終戦の日です。

日本国が大きく変わったからです。

この激動の昭和を宍道町で貧しくても心豊かに生きた体験の記録を集め「私達の昭和」という冊子を前期(一九九二)と後期(二〇〇〇)に分けて発刊いたしました。

宍道という小さな町の体験は、世界史や、日本史の教科書とは必ずしも一致するものではありませんが、この小さな体験が未来への歩みに少しでも寄与できればという願いからの出版でした。

これは僅か六十数年の間の出来事ではありません。

私たちの祖先は幾世紀にもわたって苦難の道を仏心をたよりに未来を信じて着実に今日まで伝えていただいています。



夏で、一番大切な私たちのおつとめはお盆です。

現世で、なさねばならないと念じつつ逝去なさった仏様の尊い心をうけとめておつとめしたいものです。

平素は多忙に紛れて疎遠がちな方たちも仏様のご縁でつながりが保てます。

有り難いことです。

お盆が過ぎても近年残暑がきびしいです。

お身体に気をつけてやがて来る稔りの秋をお迎え下さい。

合掌

## 孟蘭盆会と 掃除雑感

護持会副会長

内田松寿

孟蘭盆会とはお盆の正式名称で、ご先祖様のみ霊をお迎えしてご供養する行事とされています。

我が家は母の初盆です。

家族や親戚の者たちで懇ろに供養し、在りし日の思い出など語り合いたいと思っています。

自宅から近くない所二か所に無縁墓があり以前から一年に一回掃除をして祭っています。

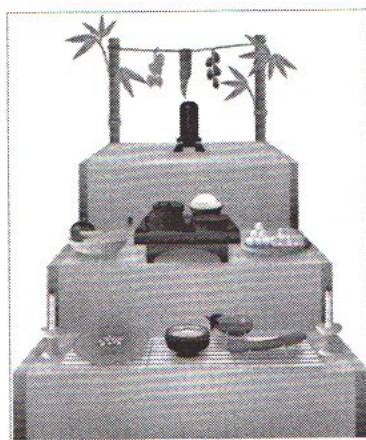
詳しいことを父から聞いていなかったのが悔やまれます。

息子は県外に出たままです。正月にもほとんど帰って来ません。

娘は嫁いで二児の母ですが、育児や勤めで忙しくしています。

地区内にはここ数年で空き家になった民家が複数あります。

家や墓の維持管理が年々難しくなっているのを実感しています。



盆前には子どもの役割として、墓掃除や庭掃除等の手伝い、キュウリとナスと割り箸で馬と牛を作ったり、盆提灯の組み立てなどしてきました。今でも童心に返った気がするのは先祖のみ心に包まれているからかもしれません。

十三日の夕方、迎え火を焚き迎え団子でご先祖様を迎え、十四日、十五日はお膳でおもてなしをし、十六日朝、送り団子を作り送り火で送るといっ

たことを続けています。

墓仏前で手を合わせる行為は過去から連綿と続く自らの先祖とのコミュニケーションです。

お盆の行事などのよき風習や伝統はなんとか残していきたいものです。

最近のちよつといい話として、サッカー・ワールドカップ(W杯)ブラジル大会で、日本は初戦でコートジボワールに1対2で逆転負けを喫しました。

ところが観戦を終えた日本人サポーターが、客席のごみを片づける画像が世界に広まり、各国の主要メディアから賞賛されています。

「日本は初戦を落としましたが、礼儀の面では多くのポイントを獲得した」「日本ではイベント後にゴミ集めは当たり前だが、W杯の会場でゴミを集めたことは他国のサッカーファ

ンにショックを与えた」「敗北の衝撃に包まれながらも、破壊的な行動をせず、ゴミを拾い始めた」等々。



サウジアラビアだったか中東の国で、学校の掃除を業者任せだったものを、子どもが自らするように指導したところ、生活態度が良くなり学業成績も向上したというNHKの報道がありました。

日本人の掃除のよき習慣は江戸時代の寺子屋教育の頃まで遡るようです。

お知らせ

お願い

●楽太鼓

大間の中央、導師席横に置いております楽太鼓は、大般若法要等で使用しておりますが、護持会長武田氏三氏の父君故徳三郎氏の御喜捨によるものです。

現在でも十分な太鼓でございませぬが、この度氏より金具などを取り付けて更に立派な装飾にしたいとの要望があり、現在修造中です、八月の施食会には間に合う予定です。

●境内の草刈り整備をして

いただきました  
境内の草刈りをしていただきました。  
中垣地区飯塚哲久氏により、ボランティアで数名の方にお世話になりました。

●施食会

恒例の当山最大の行事であります山門大施食会法要を八月七日に行います。  
僧侶十三名の読経による先祖供養です。

先祖代々精霊への年に一度の最高の報恩修行で、五如来の供養幡を祭壇や仏壇に飾り、三尺のお塔婆をお

墓に建てていただきます。

先祖さまや代々の仏さま方が最もお喜びになる、菩提寺が提供する至高の修行法要です。

暑いときだからこそ報恩の修行になるのです。

住職がお檀家さまにご法事に伺って、お墓に三尺の施食塔婆が建っているとホッとする安堵感が湧きます。

先祖代々の仏様が喜んでおられる想いが伝わってくるような気がします。

お布施も随意としていまして、どうぞお気軽に申し込んでください。

八月七日と期日が決まっておりますので、お休みが取れない方や別の用事がある方の方は、お塔婆を後日取りにおいで下さい。

当日受付の方は必ず前もってお電話で申し込んで下さい。(再掲載)

本年は施食会の後、導師に本寺洞光寺住職・諏訪文哉老師を拝請して、開山天皇星壺大和尚様の五百回大遠忌と先住天祐大聖大和尚様の七回忌を併修致します。天皇星壺大和尚様は五百

年前尼子氏の菩提寺洞光寺(当寺は広瀬)を開いた実質開山です。

弘長寺が元禄時代の少し前(千六百年代の終わり頃)に曹洞宗洞光寺の末寺となつた際に勧請開山としてお迎えした御開山様です。

●盆棚経

盆棚経は期間を延ばしてなるべく全檀家を廻る予定です。

徒弟大裕と二人で手分けして廻っていますが、今年からは中垣地区と内ヶ峠地区から、もう一方は久戸・来待川の東側(松江側)から廻ります。

その後は、大森く横見く大野く和名佐く大谷く柳井く宍道く弘長寺く鏡く浜く小松の順です。

昨年盆直前に寺族が亡くなり、またお葬式が二件もできましたので、思うように廻れませんでした。

八月十三日〜二十日まで、

八日間なるべく全檀家を目指して廻る予定です。

朝七時〜夕六時迄、十四日は初盆のお宅に参ります。初盆参りの時間指定はできません。

葬儀が出来た場合は葬儀優先です。(十四日を除く)葬儀や突発事情が多く発生した場合は、全檀家を廻れない場合もありますのでご了承ください。

●秋葉祭は本年も読経供養のみ、カラオケ大会は諸事情により休止します。

●秋葉祭の提灯(五個)が古くなりましたので、中垣大工・土江昭氏に(手間賃奉仕で)造り直していただきました。

●宗務所主催の本山参拝の旅にご参加されませんか。

平成二十六年十月七日(火)〜九日(木)二泊三日。百二十名募集です。経費は五万二千円バスの旅です。

- 十月七日 大本山永平寺泊
- 十月八日 總持寺祖院参拝
- 十月九日 輪島温泉泊
- 輪島朝市散策
- 帰路

参加される方は九月十日までにお寺へ申し込んで下さい。

誌上法話

※中国管区教化センター報に  
載りました

玄奘三蔵法師様の  
発心に学ぶ  
住職

「西遊記」の三蔵法師を  
おそらく皆様もご存知でござ  
います。正式には  
玄奘三蔵法師様と申し上げ  
ます。

私達が毎日読経する「般若  
心経」もこの玄奘様の漢  
訳を読誦させていただいて  
います。又大般若経六百巻も、玄  
奘様の翻訳された経文を行  
持で転読させていただいて  
いる、いわば曹洞宗だけで  
なく、日本の仏教界にとつ  
ての大恩人でございます。

玄奘様は唐の時代の方で  
すが、唐の国には諸経があつ  
ても原典を意識したもの  
殆どであり、疑念を抱く  
典が多数ありました。

そのもどかしさから発心  
され、経典の原典を求め  
たため、国禁を侵してイン  
ドへ旅立たれ、灼熱の砂漠と  
雪と氷の天山山脈を通り、  
インド各地を仏教の研鑽を

しながら経典を集め、膨大  
な経典を中国に持ち帰られ  
たのでした。

元より仏教の高度な智者  
であり、インドや各地の言  
語を前もって身につけてお  
られた方であるが故に、行  
く先々で仏教の講義を頼ま  
れたり、引き留められたり、  
庇護を受けるに足る方であ  
りました。

しかし、地球の円周四分  
の三に当たる気の遠くなる  
ような三万kmを踏破、十七  
年をかけてその膨大な原典  
を持ち帰つただけではなく、  
その原典を翻訳された偉業  
は目をみはります。

「大唐西域記」は玄奘様の  
著作ですが、一番弟子「弁  
機」がそれを編集、その弁  
機は西域事情を知りすぎた  
為か、密通罪で処刑されて  
いる。唐は数年後には滅ばさ  
れて、西域情報には神経をと  
がらせていたのでしょう。

私は、この本を通じて玄  
奘様の一生を解つたつもり  
になつていました。二〇〇  
一〇年にテレビ東京が編集  
出版した「封印された三蔵

法師の謎」を読み、改めて  
玄奘様の偉大さや、それに  
纏わる謎を知りました。

テレビ東京のスタッフが  
チームを組み、実際に玄奘  
様の足跡を辿つたのです。

主に車を使い、氷の天山  
山脈のルートが不明な時に  
は空からヘリでの探求も試  
みている。



蔵本院塔院恩慈寺教興  
本拓「玄奘法師蔵」

読後、よくぞ挑戦された  
との感謝の思いで一杯にな  
りました。

車を使つても大変な行軍  
であつた事がよく解ります。

その危険だらけの行程を玄  
奘様は自らの足で歩まれた  
のですから驚嘆です。

実際の地図を傍らに置き  
本を讀んでいくと自分もそ  
のチームに入っているよう  
な気になりました。

放映された番組を是非と  
もDVDにしていただけれ  
ばと切望します。

道元様は一発菩提心(発  
心)を百千万発起こせとお  
示しです。

すぐに求法意志がくじけ  
る弱い私であります。こ  
の本によつて再び一発菩提  
心を得ることができました。

仏法のため、本物經典に  
より衆生が救われるため命  
の危険度九十九、九九%に  
対してあきらめず一歩一歩、  
不可能はないとの玄奘様の  
メッセージをいただきな  
ら、今日も発菩提心眞言を  
お唱えしてまいります。

オン ボウジ シツタ  
「私はさとりを求める心を  
おこします」 ボダハダヤミ

合掌

住職は考える

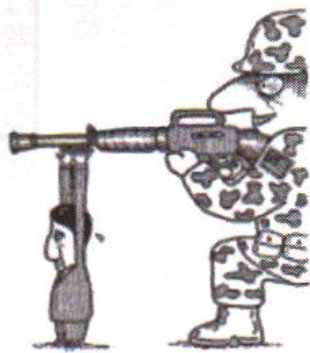
平和

曹洞宗は三つのスローガンを掲げている。「人権・平和・環境」である。

ある会議で平和に対しての意味付けが変わったという報告がありました。

昨年まで「平和の確立」と謳われていたが、本年は「平和の実現」と変更され、いかにも具体的に一歩前進するかのよう印象を受けました。

今回の安倍内閣による集団的自衛権行使容認（個別的自衛権を超えた積極的な武力行使、将来は改憲も視野）を受けたのだから、当然不戦と平和の実現を謳う曹洞宗は何らかの行動を起こすかと思いきや、宗務庁は「そんな意志は全くありません」との返答である。（本庁への問合せは閣議決定前だが未だに何の動きもなし）



不戦の壁を破り、武力行使を明言する政治に対して「NO!」と言う時期は何時か？「今でしょ」。

つまり「物言えば唇寒し秋の風」そのものズバリである。そもそも曹洞宗は「平和」に対しての本気度など最初から無いのです。

「スローガン」の意味はスロー（遅い）ガン（弾）ではないし、スルー（素通りする）ガンでもないはずです。

理念・運動の目的・主張を端的に表したモットー・標語であります。

かけ声だけの空モットーは仏様への背信行為ではないだろうか。

「人権」に対しては当時の町田宗務総長が、昭和五十四年世界宗教者平和会議での問題発言を批判されたのをきっかけに、各地で住職の差別発言に対する解放同盟の糾弾を受けて宗務庁が重い腰を上げ、庁内に強力な組織「人権本部」を置いたのです。

そして今もってその機能は絶大な効力を発揮し、自浄能力も備えています。

「平和」に対する真剣な本

気度を示すには「平和本部」を起ち上げるべきだと思うのですが如何だろうか。

曹洞宗僧侶にも種々な思想の持ち主がいる。

竹島に上陸して韓国の領土だと主張する僧侶がいるくらいだから、極右思想・極左思想の僧侶がいても不思議ではない。

宗務庁に平和本部がなく、本気で仏教的平和思想の理論武装など考えていないから、一部の偏った思想の持ち主に宗務庁に押しかけられ、職員が感情的に詰め寄られて何も言い返せなくなるのは当然のことです。

集団的自衛権行使容認する人たちは、行使容認こそ抑止力がはたらき、日本人の命を守り平和を守る行動だと主張しています。

はたしてそうでしょうか。勿論そう言う国もあるでしょうが、臨むところだと逆に意に介さない強大な武力を持つ国もあります。

一旦武力を行使すれば、相手もそれに合わせたシナリオを再構築するはず。それ以上を再構築するはず。それ以上を再構築するはず。

でしよう

安部首相

はのんきに限定的と思っ

ているらしいのですが、相手国にとつ

てそんな論理は通用するはずが、

りません、一旦武力衝突が起これば

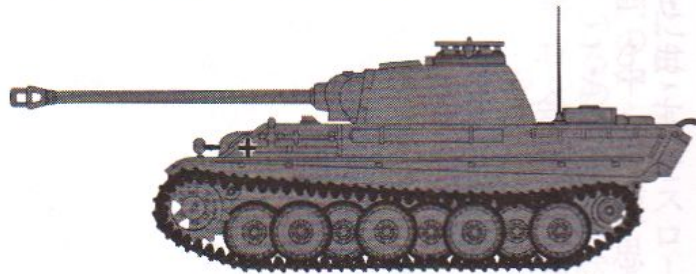
拡大して、核まではいかないまでも日本に砲弾が撃ち込まれる可能性が大になります。

アメリカも日本に対して「武力行使可能ならどんどん任せたよ」となり、益々軍事費を増やさねばならず、必ず家計をも圧迫してきます。

築き上げた「平和の国日本」というイメージから、平和を捨て軍事大国日本に逆戻りです。

自衛隊は退職希望者が激増し、将来は徴兵しなければ対応が困難になるでしょう。

こうしてみるとガンジーという方は絶対に真似がならぬ



住職は考える ②

本当に偉大な方だと思ふ。不可能に近い「非暴力・不服従」を貫かれました。

現実離れの突拍子もないような言葉ですが、実はお釈迦様の言動パターンと同じです。

つまり困難な道なのですが、これこそが仏教者が取るべき本来の態度なのです。

そこには国連憲章五十一條の個別的自衛権をも否定する偉大で崇高な思想を包含しています。

そして空念仏ながら曹洞宗もホームページでそれを主張しています。

そのホームページをみてみましょう。

スローガンの中の「平和」という項目を開いてみます。

「曹洞宗は、戦争の悲惨さを直視し、いのちの尊さを自覚して、世界平和の実現に向けさらなる努力を続けたいです。(中略)争いのない慈悲の心に満ちた社会を築くべく、まごころをもつて努力することをお誓いする精神があります。」

人類は、何度戦争という過ちを繰り返せば気が済むのでしょうか。

それぞれが自分の正当性のみを主張し武力をもつてぶつかり合っているようでは、人びとが「ともに生きる喜び」「ともに対話する喜び」を見出せる世界など到底実現できるはずがありません。

曹洞宗は平成十五年、過去に関与した侵略と植民地支配について「懺謝文」を表明しました。

「ともに生きる喜び」について、「懺謝文」では、次のように説かれてあります。



「われわれは誓う。二度と過ちを犯すことはしない、と。人は、何人と言えども、他によって侵されたり、迫害されたりすることは許されぬ。人はかけがえのない存在としてこの地上に存在するものだからである。それは国家においても、民族においても同じである。」

省みれば第二次世界大戦以前、国内外にて我が宗門はさまざまな形で戦争賛美や他国の人びとを傷つけるような説教を繰り返した、恥ずかしい過ちの歴史を有しております。

今一度ここに懺悔(さんげ)の念をおこすとともに「過ちは繰り返さない」という思いを皆さまとともに受け止め、曹洞宗は「不戦」の立場から、戦争は誰にとつても過ちであることを主張します。」

この如くの立派な文言が並んでいるのだが、「唇寒し秋の風」どころか言葉だけが宙に浮いて一人歩きし、「夏風邪による重体」の感があります。

「不戦」を誓うはずの仏教

者が、敏感に反応するどころか「何もしない」との返答には呆れかえるしかありません。



平成十九年、渙英徳曹洞宗元宗務総長の談話が発表されました。(勿論ホームページに載っています)

「先の太平洋戦争開戦より、すでに六十六年の歳月が経過いたしました。」

私は今、あらためて当時に思いを馳せると、国家等に強いられ、戦争や侵略行為は、多くの尊厳ある生命を奪い、特に犠牲となつたのは、命令を下した為政者のせいしやではなく、一般の人々とりわけ社会的弱者であったことに万感交(こもごも)至る思いであります。

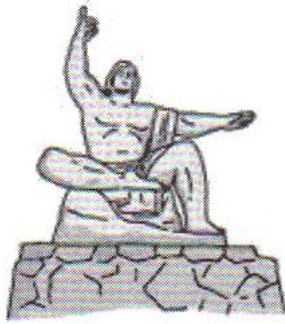


住職は考える ③

このことは、人類における最大最悪の人権の侵害という許しがたい行為であり、共生共存の否定であったと思います。

昨日、日本国憲法第9条の改憲について、さまざまな論議がなされております。

現行の憲法については、日本国民が自ら生み出したものか、戦勝国から押しつけられたものかという議論があり、戦後、人々が希求した平和を謳った現憲法による戦争の放棄は、世界からも高く評価されています。



日本国憲法は、わが国の人々が何をなすべきか、何をなさざるべきかを定め、民衆の願いと希望が凝縮されている。

現在、とりわけ戦争放棄と戦力不保持・交戦権の否認という理念を変えようとする動きがあり、どのような政治的必要性が強調されるにせよ、その原則を変え、戦争の放棄と戦争のための軍事力を保持しないと明言する現行の憲法を、あえて戦争のできるよう改変する積極的理由は認められな積極的と思われ、宗教でありながら、戦争に積極的に加担し、太平洋戦争後四十七年間もこの責任の表明を為しえなかつたことに對しての謝罪を表明していただきます。(中略)

合掌

私は右翼でも左翼でもありません。教の教えを中心に考える派です。

そう思っつて、素晴らしいと心底から納得できるものです。

武力行使で相手を殺害し、自衛隊員も殺害されかねない、いや、それどころか他国から恨みを買って日本に直接攻撃を受けるか、日本各地でテロリストによる大量殺戮だつて起こる可能性も否定できないでしょう。



エ、激しくなつてきたイスラエルとパレスチナの殺し合いが、他人事に思えなくなつてきました。

不戦と武力行使は百八十年度相反すると思つてますが、(世界平和の実現に向けて)さらなる努力を続けてい(ま)す。つて、宗務庁はどの顔で言つてるんでしょうか。

恐らく心の中では舌を出して、「そんな意志は全くありません」でしょうね。そうかもしれません。

一応表向きにはこれをスローガン(宗門の中心施策)として戴いているのですから、宗門の見解として即座に声を出さなりの「無視」として、別の意味での「無視」という別の意味での「無視」には正直愕然といたしま

宗教学者にインポテンツ(インポテンツ)：役立たず、何も声をださない、と揶揄されるはずだ。

六月宗議会でもこの件が緊急上程され、審議されたと、情報情報は、悲しいかな全くありません。

宗議会はそれぞれで、計四十億円近くがどぶに捨てられること、決着をみた安堵感でやれやれ状態なのでしょうね。

「われわれは誓う、二度と過ちを犯すことにはしな」と、懺謝文の言葉は「しい、宗務庁の返答は「そんな意志は全くありません。これは笑うしかないのではしょうか。

スタートホテル問題に返す宗門です。戦

④ 住職は考える

に對しても、二度三度くらい  
の失敗では骨身に染みない  
いでしようね。

頼みの綱の（本当は最初  
から頼みなどしていな  
いのだが）公明党（宗教の立  
場で一応不戦を主張し反対  
していた）も、連立重視を  
先行させた為、足元を見ら  
れて自民党に簡単に押し切  
られてしまった。

特定秘密保護法案も年内  
成立の可能性が高くなり、  
次はいよいよ憲法改正とな  
ります。

この先どうなるのでしょ  
うか。



再び戦争になったその後  
で、「懺謝文」がもう一度  
書けるような世の中の状態  
であればよいのですが、ま  
さか人類滅亡なんてならな  
いでしようね。

ホームページ「平和」の  
中の項目が全て削除されて  
いけば、私もこんな文章は  
書かなかつたのですが、堂々  
とすまし顔で掲載されてい  
るものからついつい書い  
てしまいました。

心にもないウソ八百の項  
目には早急に削除されること  
をお勧めします。

宗教者にとつて政治問題  
は治外法権であり、政治問  
題に関する論は避けたほう  
難だとの思いが大多数の僧  
侶の中にはあります。

でも、私は「武力行使」  
という仏教の教えに完璧に  
対して、平和に反する行動に  
上れることこそ、多くの人  
命を危機から救う「利他行」  
そのものであると確信して、  
疎まれるのを覚悟で敢えて  
文章にいたしました。

弘長寺護持会主催  
日帰り研修旅行

ある昨年成田氏菩提寺で  
て、龍淵寺様に参拝でき  
る幸せでした。研修成果を  
帰ることにできました。

来年は弘長寺開基・藤  
原満資公の主君・鎌倉・藤  
府：北条時頼公の菩提寺  
で定建寺の参拝を  
予定して参拝する  
予定年、建寺の参拝する  
研究を、長寺の参拝する  
一方、弘長寺の参拝する  
お山陰に北条氏はゆかり  
ん寺が在るとは思ひませ  
ん。是非来るとは思ひませ  
供養祭にお招きしたま  
す。お招きしたまはま  
別問待たせたくは、深  
す。縁がとけて、か  
来年は鎌倉へ参拝し、  
た。いとは思ひませ

＜弘長寺護持会様：日帰り研修旅行＞【日時・行程決定分】

日時	旅行行程	昼食場所等	備考
平成26年 10月23日  (木)	松江市宍道町 8:00頃発  《法然上人二十五霊場第1番札所・中国観音特別札所》 美作：誕生寺参拝(法然上人ご生誕地)【浄土宗寺院】 10:20～11:20頃 ※日時確定後に参拝依頼申請いたします。  《団体祈禱と寒松庭拝観プラン》 最上稲荷妙教寺【日蓮宗寺院】 12:30～14:00 (昼=頭妙閣:松花堂弁当)  ＜岡山・中国・松江道＞ たたらば一番地	院庄IC 10:00頃  ＜R53＞  岡山総社IC 14:15頃  松江市宍道町 17:20頃着	*最上稲荷・頭妙閣 【松花堂弁当】 2,160円税込

参加費用は九千五百円です。  
～切りは九月末日お寺まで